

ガーデナーの心を掴む、美しい染色の革製品。



革産業の伝統を大切にする一方で、時代を敏感に読み取るバーン。お気に入りのエプロンを着て染色機の前で。



染色後の革をローラーで伸ばす作業。商品により厚みを手動で調整する。長年の勤が頼り。



余り革で作った縄たき。1本1・50ポンド。春から注文が増え、6月が出荷のピークになる。



手袋型に、完成した手袋をはめて念入りなチェック。厳しいクオリティコントロールがある。



何十年と使い込まれた手動式マシン。手足と一体化しているほど。



剪定バサミやスコップを入れる「ミニパウチ」とスエード製手袋。

英国人とガーデニングの切っても切れない関係は、つとに知られている。週末のガーデニング・センターともなれば、プロから素人まで、苗や肥料、そして園芸道具を求めるガーデナーたちで賑わいを見せている。

そうした店のガーデニング用小物売り場で、ひととき目立つ品々がある。それが「ブラッドリース」の印象的な色使いの革手袋とエプロンだ。

英国唯一のタナリーが、園芸小物の世界を変えた。

もともと庭用として使われるものは、質実剛健で知られる英国人らしく、なんの変哲もない色とデザインだった。ところが、このメーカーの革製ガーデニング製品は、とにかく色が鮮やか。エメラルドグリーンにマスタードイエロー、そしてピンクと、鮮やかな色が揃っている。肘までをカバーするスエードの長手袋も、美しいツートンカラー。これまでの製品になかった色とデザインで、高い人気を得ているのだ。

いまでも現場に交じり、仕事を率先してこなすオーナー、ブラッドリー・バーンが率いるブラッドリースは、英国で唯一、工房内で革を染色、自然乾燥させ、製品を作るタナリー（革なめし工房）だ。

長年、溶接工や製鉄工たちが用いるための耐熱・防刃革手袋や革製エプロ

ンを製造してきたが、その知識とノウハウを生かして、ガーデニング用の手袋やエプロンを開発。その商品に、花々にも劣らぬような、明るく美しい染色を施したのだ。

「園芸用の小物にだって、お洒落心があってもいいでしょう」と、胸を張るバーン。エプロンには、「自宅で庭仕事をしているときに、剪定バサミやスコップやらを入れるポケットが欲しかった」と、自分が感じた「必要」を形にしている。

バーンが誇るのは、製品の工夫だけではない。染料や顔料、革やキャンバスといった素材が純英国産であること。さらに、染色準備からなめし、裁断、裁縫に至るまでの工程を、地元の6人の職人によってハンドメイドで行っていることだ。

ひとつひとつのクオリティを優先するため、大量生産は行わず、「手作りに勝るものはない」と信じ、目に見えない工程でも決して手を抜かない。

そんな心意気が認められ、2年前のチェルシー・フラワー・ショーでは、トレード大賞を獲得した。それは権威ある英国王立園芸協会が主催する園芸展覧会で、商品が認められたということの意味している。ガーデナーたちの心を掴んだ粋なグッズは、それまで脇役であった小道具を、主役に劣らぬ存在にまで高めたのだ。



「ブラッドリーズ」の代表商品、革のエプロン。左はスエード、右はなめし革製で各80ポンド。後ろでは革の自然乾燥中。問い合わせはウェブサイト (www.bradleysthetanner.co.uk) まで。